

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071601738
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑 (ユニット名 1階)
所在地	福岡県久留米市南1丁目17番1号
自己評価作成日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7ー1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成28年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化率の高い地域にあり、平成15年12月の開設より地域の中の認知症になってしまった方々の住む「家」として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らしていけるように支援しており、日頃の散歩・地域の夏まつりには毎年参加している。また開設より13年目を迎える今日、ご利用者の状態も其々に変化されているが、同じ「いえ」に住む疑似家族として、また協力医の絶大なご協力のもとターミナル・お看取りまで支援していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道が走る商業地区近くの住宅街に位置し、代表者の両親が経営していた縫製工場を増改築し、母親の介護への熱意の籠った事業所である。事業所の理念である「暖かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者の尊厳を大切にしつつ、共に暮らしながら、心からのケアに努めます」を職員は念頭に置き、ホームが利用者の住家となるように職員は家族同様に接するように心がけている。天気の良い日は散歩に出かけ、地域住民との挨拶や庭先の花を見学させてもらい休憩しながら地域住民との交流を深めている。利用者の安心した表情と職員の明るい笑顔がみられ穏やかに過ごせる事業所となっている。地域高齢者の在宅生活を支える拠点として期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 部	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は、暖かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者の尊厳を大切にしつつ共に暮らしながら、心からのケアに努めます。そのためにスタッフ一同協力しあって、ご家族や地域との交流の中にも安心と安らぎのあるホームを目指します」との理念の下、実践に向けて取り組んでいる。	事業所の理念を玄関に掲示しており、職員は毎日の朝礼時に唱和している。職員は、ホームが利用者の住家となり、職員は家族同様に接することを心掛け、心からのケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かける際には地域の方々と違和感なく挨拶を交わし、地域の保育園の園児たちが事業所の前の道を散歩する時には園児たちとも挨拶を交わしている。自治会には加入し、平成27年度は会計監査役を受けていた。地域の夏祭りにも、参加している。	自治会に加入しており、回覧版でも地域の情報が読み取れる。校区の夏祭りには毎年参加している。祭りの実行委員である地域の方は、ホームの利用者が参加しやすいように取り計らっている。また、事業所の敬老会に地域の方を招待し、ボランティアによる演奏などを一緒に楽しみながら交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症・介護に関する相談は、常時受けている。2つの地域ケア会議の一員であり、地域ケア会議のメンバーで行う「認知症サポーター養成講座」を開催し、地域の方々・小学生に対して、認知症に対する理解の周知に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議は、近隣の地域密着型サービスの運営推進会議の交互参加をしており、地域の課題の吸い上げが行えている。また、自治会長・民生員の方々にも意見を求め、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は偶数月に開催し、市職員、包括支援センター、他事業所、民生委員、自治会長、利用者、家族代表等の参加を得ている。利用者の暮らしぶりや行事報告、ひやり・はっと報告などを行い、外部評価の内容や結果についても説明している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは日常的に連絡を取り合っている。法人代表者は、久留米市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進協議会・久留米市地域包括支援センターの運営に関する協議会・地域密着型サービス運営委員会に属しており、久留米市の地域密着型サービスの質の向上に努めている。	介護報酬改定に関する説明を受けたり、事業所の代表は協議会の役職を担っている関係で、情報が早く入ったりしているので、家族への報告もスムーズにできている。市担当者とは密接に連携し協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から日中の時間帯に玄関に施錠することはないが新規入居者の状況等を勘案し、各フロアの入り口を施錠することはあるがここ数年、施錠はしていない。身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	年に1回外部研修に参加し、伝達研修も行われている。毎月、会議を開催しており、ベッド柵や言葉づかいによる抑制がないように話し合っている。玄関の施錠は、20時から5時まで防犯上施錠しており、日中は開錠しているので自由な出入りが可能である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部や内部での勉強会で虐待について学び、スタッフ全体で虐待が見過ごされないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前ご利用中のご利用者に、成年後見制度が必要と思われた方がおられたため、ご家族へお話しし、制度を活用されていた。また、職員の周知においても、カンファレンス時に勉強会を行っている。	事業所の代表者は、成年後見制度や認知症サポーター養成講座で講師を務めており、職員は代表者より内部研修を受けている。現在、成年後見制度を利用している方はなく、ポスターやパンフレットの設置はしていないが、利用者、家族等には必要に応じて代表者が説明するようになっている。	現在、権利擁護を受けている利用者はいないが、家族や利用者への制度の周知の機会としてパンフレットやポスターなどを設置することについて検討することを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に至っては、十分な説明を行い納得の上、サービスの利用が開始されるよう努めている。サービスの利用開始後に於いても、気兼ねなく相談頂けるよう声かけを行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、3カ月に1度発行の「さくら苑便り」にはご家族様が意見や要望が発言できるよう働きかけている。また、家族会資料には市役所介護保険課、国保連の電話番号を記載し、ご家族が意見や要望を外部へ発信いただけるよう努めている。	家族会が開催されており、事業所の近況報告や意見交換を行っている。ケアプラン内容を説明する際、個別に事業所に対する要望等を聞きとり反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼時には職員に対し運営、その他のことに対しても意見を求め、常日頃より職員が代表者・管理者に意見や提案を申し出やすい環境づくりに努めている。なお、申し出があった意見や提案については全職員で協議し運営に反映している。	運営に関する意見や提案は、その都度代表者にも伝えることができる。また、代表者との個人面談で伝えることもできる。日々の介護場面で気づいたことは全員で共有し、業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護報酬の減額により給与水準を上げたくても上げれない状況である。外部の研修等に参加した職員に対しては研修報告書の提出を求め評価に繋げている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等により採用対象から排除することはないが、やる気の有る無し、認知症高齢者に対する考え方如何によっては不採用とすることがある。	事業所はハローワークで職員募集を行っており、採用には一切制限はなく、明るく高齢者を好きな方を重視している。個々の事情や要望に合わせて働きやすい環境づくりに努め、職員の希望を取り入れた勤務体制をとっている。趣味や特技を活かして働けるよう配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者会議に於いて人権についても考察しご利用者に対する人権教育・代表者の想いを伝え、カンファレンスに於いて管理者より各職員に伝達し啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会にて利用者への声掛けや言葉づかいについて話し合いをしている。利用者の呼び方も、名字だったり、時には旧姓を好まれる場合もあるため、笑顔で反応があるような対応をしている。家族にも承諾を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格で入社の者には、受講料は法人が負担し働きながら初任者研修を受講できるよう推奨している。また、有資格者・無資格者限らず、外部の研修には積極的に参加できるようにシフトの変更等行い受講しやすい環境づくりに取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当事業所は、久留米市介護福祉サービス事業者協議会に加入しておりグループホーム部会が実施する研修会には積極的に参加するよう勧めており、その中で他の事業所との交流を推進している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居のご相談があった時点で、ご家族やご本人のお話をよく聞きとり、入居後も安心して生活して頂けるように職員間でも話し合いを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の聞き取りの際や面会時に、こちらでの様子をお話しし、ご本人やご家族の要望をよく聞き、コミュニケーションを多くとり信頼関係を築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意見を重要視した上で、生活を共にしつつ、その中で何が必要かをカンファレンスなどで話し合い導入している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般に於いてできる作業は職員と一緒にしていただき、また食事と一緒に食べ会話の場を多く持って、関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にご家族の顔を忘れられないように写真などを見ていただき、ご家族にもいつでも面会に来ていただけるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にご本人の思い出の品や写真などをご家族と協議のうえ目に入るように配置している。ご家族にお書き頂いたご本人の生活歴をもとに昔の思い出話を持ち掛けご本人らしさを維持して頂くよう努めている。	利用者が自宅にいる時からの友達が遊びに来られており、職員が歓迎し接待している。自治会長より敬老会の案内があったり、選挙の投票に家族に依頼されて送迎することもある。馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事支援やレクなどで共同作業やグループワークなど行い、ご利用者同士の関係を深めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者様のご家族にも年賀状を送り、お亡くなりになられた際には参列できる職員は通夜、葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の考えを強要せず、ご本人の意向を聞きそれに添えるように生活して頂いている。言葉の出にくいご利用者は顔の表情で意向を把握に努めている。	事前に個人記録から生活歴を把握し、利用者の理解できる言葉でコミュニケーションを図り把握に努めている。1日を大事に過ごしてもらえるよう穏やかな関わりを持っている。いつもと何か様子が違うと感じた際は、職員間で話しあい情報を共有しながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでの生活歴を記入して頂き、職員それぞれが目を通した上で、一人一人のこれまでの暮らし方、生活環境に合った支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人に担当のスタッフを決め心身状態の把握に努めている。また担当のスタッフでなくても変化があれば記録し日々の変化を申し送っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスで課題やケアについて話し合い、ご本人やご家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。	日常生活で見落としがないよう、職員は情報共有に努め、定期的に行われる家族会でも話し合う場面を設けている。また、家族への近況報告等は書面や携帯電話等を利用することもある。定期見直し以外にも必要時には関係者の意見を反映し現状に即した計画書を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録以外にも個別ノートを設け、特変時にはノートに記載し職員間で申し送っている。カンファレンスではケアプラン以外にも気づいたことなど話し合い改善できるよう案を出している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して変化があった時、申し送りに意見を記入し、他職員の意見を促し、情報を共有しながら良い方向へ改善できるように取り組んでいる。状況悪化の際にも「その人」らしい時間を提供できるよう訪問看護などにも入ってもらい対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源は把握し、外出支援や散歩などを通して近所の方とも交流が持てるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医のご希望はお聞きしている。主治医との連絡、報告を欠かさず深夜であろうと急変があれば連絡が取れるようにしている。定期的に受診や往診を受けている。	内科医の往診があり、時間に関係なく連絡することができて連携を図っている。地域ケアシステムに準じ往診以外でも他科受診は家族と調整しながら対応している。すり傷や打ち身などを発見した場合、家族への報告は、電話、メール等を活用し速やかに報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体やバイタルサインの変化など変化があれば、看護職や主治医への報告をし、管理者への報告も行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、早期に退院できるように病院関係者やご家族と情報交換している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じてその都度、ご本人、ご家族に伺っている。終末期には主治医の指示で訪問看護ステーションを利用し適切な医療や看護が受けられるように支援している。	終末期の希望は利用開始時に確認しているが、気持ちの変化もあるので、状況の変化に合わせて対応できるようにしている。この2年は看取りの対応はないが、その際は家族が泊まり皆が見守る中で看取りができる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	玄関にAEDを設置している。感染処理セットを準備し勉強会も行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。地域の方にも参加して頂いている。火災通報時には代表者、管理者、他事業所の方にも通報がされ、互いに協力し合えるようになっている。	年2回、消防署の指導のもと夜間想定での避難訓練を行っている。避難ルートは周知されており、防火基準を満たしている。更に2階居住の方へは外リフトの設置もある。水や物資の消費期限の定期確認をしている。火災対応マニュアルはあり職員は周知しているが、地震対応マニュアル作成までに至っていない。	水害に遭う地域ではなく防災対策について職員は周知しているところなので、熊本地震災害の教訓からも地震災害のマニュアル作成について検討する機会を持つことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬を大切にしながら対応しているが、ご利用者に対する声掛けが悪い時は職員同士で注意し合いカンファレンス時に話し合いをしている。	職員のコミュニケーションの取り方で気になったときは、随時その場にいた職員同士が気づきを伝えるようにし、自己の振り返りができるようにしている。広報紙「さくら苑便り」の利用者写真は家族の承諾を得ており、利用者の個人情報等は鍵のかかるボックスに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし毎日の様子を伺いながら自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースは大切にしている。希望を聞いてはいるものの、現在はご本人の希望を言えるご利用者が少なく、職員がその方らしい暮らしとは何かを考え支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容はできない方はスタッフが行い、ご本人や季節にあった服を選び支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえは一緒にできる方は行い、一部のご利用者とは食事の下膳や食器洗いを一緒に行っている。	献立は10日分程度できているが、ご近所から農作物の差し入れがあると皆で話し合い献立の一部を変更している。利用者の目の前で魚や野菜、スイカなどの食材を見せてコミュニケーションをとりながら献立の話で盛り上がっている。また、グリーンカーテンの苦瓜は窓から直接収穫してもらい食事中的話題作りにもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは調理担当者が献立作成時に配慮している。飲水量はすべて計測し、1日1500cc以上は飲んで頂くように工夫している。また、水分制限などられる方はその都度主治医と相談して、水分量を決め支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者にあった口腔ケアの支援を行っている。義歯は週1回洗浄剤を使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の力、排泄パターンを把握し、時間ごとにトイレ誘導を行い、使用するオムツ類も数種類用意しその方にあったオムツ類を使用している。	個人の排泄パターンを把握し時間ごとに誘導しており、それ以外にも状態を見て対応している。段階を追ってオムツ使用からパンツ使用へ移行している。臭気については、こもらない清潔に配慮している。また、食事との関連性を考え対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や運動の工夫も行っているが、排便の有無を毎日記録し、未排便の場合、下剤の服用、調整など看護師と連携し行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日は決めてはいるものの、入浴のご希望があれば添えるように支援し、失禁や、発汗はどで汚染があればその都度入浴できるように支援している。	入浴チェック表を用い、毎日3名程度入浴しており、本人の希望やその日の状況に応じて入浴している。個人の使い慣れた物や好みの物等を使用し入浴を楽しんでいる。車いす利用の場合でも、浴槽につかり開放感を感じてもらえるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の夜間の睡眠状態に合わせ十分な睡眠がとれていない場合は日中であっても臥床し休息をしていただくように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更がある場合には、ご利用者様個別ノートに記載し職員の理解を高め、ご利用者様の状態変化の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者それぞれの状態に合わせた家事などを手伝っていただくことで役割をもって生活して頂いている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩にお連れしたり、季節のお花を見に遠出したりと支援している。希望を聞けない方にも等しく支援できるようにしている。	天気の良い日は散歩に出かけ、ご近所の方々と垣根越しの会話を楽しんでいる。月に2回程度は希望に添って花見や買い物、外食へ行くこともある。長時間の外出が困難な場合は雰囲気のお土産(お花など)を持ち帰り配慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族にご理解の上、個人のお金は事務所に預り金としてお預かりしている。ご希望があれば嗜好品を近くのお店と一緒に買いに行ったり支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話して頂きご家族から電話があった場合にはご利用者にお繋ぎし話していただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場では心地よく過ごしていただけるように、季節の飾りを行ったり、工夫している。一方で転倒や異食がないように配慮している。	隣接する台所からは食器の音がしたり、調理の匂いが漂ったりして生活感がある。壁には利用者の作品展示や季節の飾りなどを掲示している。窓から見えるグリーンカーテンや天窓を活用し、オープンな空間を作り出している。リビングダイニングにはソファを設置しており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し過ごしやすい環境作りを心掛け、ご本人の好きな場所でくつろげるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者のご家族が持ってこられた家具などを置き、リビングにはソファを配置し過ごしやすい環境作りを心掛けている。	日中でも自室は扉を閉め、プライバシーの確保がなされている。家族の写真や仏壇、馴染みの物を持ち込み、思い思いの持参物から利用者の個性が窺え、その人らしい暮らしの継続を工夫している。台所を中心に居室が見渡せるようになっており、個室でもコミュニケーションが取りやすい環境である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、転倒がないように配慮し、異食がないように、異食されるようなものは置かないように安全に配慮している。それぞれのご利用者の「できること」「わかること」を活かせる工夫を行っている。		